

第4回 「市民参加条例」策定に係るワークショップ 議事録

- 【日 時】 平成23年3月5日(土) 10:00~12:00
【場 所】 茅ヶ崎市役所分庁舎 5階 A・B会議室
【出席者】 市民:16名、茅ヶ崎市職員:3名、コンサルタント:4名

議事次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 全体討議
4. 閉会

1. 開会

事務局(石井)

おはようございます。
ただいまより、第4回「市民参加条例」策定に係るワークショップを開催させていただきます。
はじめに、市民自治推進課課長、高橋よりごあいさつ申し上げます。

2. あいさつ

高橋課長

◎「市民参加条例」策定に係るワークショップの開催にあたってのあいさつ

改めまして皆さん、おはようございます。お忙しいところを有り難うございます。前回からグループ討議という形で入っていただいております。今回は引き続きという形をお願いしたいと思います。

前回の中で近日中に基本方針の検証結果につきましてお示ししていきたいというお話をさせていただいたところでございますが、内部の最終的な合意形成というか、その部分のところでは若干文言の修正等がありまして、来週、今、土曜日ですので、来週の末ぐらいにはまとめたものを皆さんの方へお配りしたいと思っております。

あと、併せて、他の職員の出席を、というお話もございました。できれば、この検証結果と併せて、次回以降、参加させていただけるように内部の方で、また、働きかけをさせていただきたいと思っております。

いずれにしましても、前回、まだ、1時間程度お話をさせていただいただけでございますので、本日もまた引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

3. 全体討議

事務局(石井)

それでは、配布資料の確認をしたいと思います。お手元の資料の確認をお願いいたします。

まず、1枚目が資料の4の1と書かれているもので、ワークショップのプログラムが1部。それから、参考資料として4の11、市民参加条例ワークショップニュースの第3号が1部。それから、参考資料4の12として模造紙のコピーを1部。それから、4の13として、こちらはグループ討議の模造紙のまとめになります、これが1部。こちらのほうは、グループごとになっておりますので、A3のものが3部、つづられております。それから、4の14として、前回第3回の議事録が1部。

以前、お配りしてました第1回、第2回の模造紙のコピーが1部あります。お手元にはない資料がある方、いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

本日のワークショップの内容につきましては、ワークショップニュースという形でまとめていく形になりますが、そのために写真を撮影させていただくことがありますので、事前にご了承いただければと思いますので、よろしくお願いたします。

では、ここから先は、ファシリテーター、お願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

ファシリ
テーター
(能率協会:白鳥)

皆さん、おはようございます。本日もよろしくお願いたします。

今日は先ほど、資料の中で説明があった参考資料4の13で、前回の各グループの検討をまとめたペーパーを配らせていただいております。前回は1時間程度のワークだったと思いますので、これをもう少し深めていただいて、課題をまとめていただいたり、その課題に対してどんなことを解決策として考えていったらどうかというところをまとめていただければと思います。

ということで、各グループで検討いただいて、11時半ぐらいを目途に、また各グループで発表いただければと思います。

もし、時間に余裕があれば、それから次回以降の進め方の部分についても、グループで話し合いを進めていただければと思います。ということで、早速、各グループの方での話し合いに入らせていただければと思います。

村中さん

ちょっと質問いいですか。すみません。前回、全然無視された寸劇の話はどうなったんでしょうか、ということ、それから、ワークショップのニュースをそちらで勝手に出されていらっしゃるのですけれども、第3回市民ワークショップを終えて、という感想が書いてあるのですけれども、これはだれの感想なのかというのが全然書いてないのですけれども。その辺のことにちょっとお聞きしたいのです。

ファシリ
テーター
(能率協会:白鳥)
事務局(村上)

じゃまず、1点、寸劇のところでご回答をお願いします。

寸劇の件につきまして、答えさせていただきますと、前回までの資料のつくり方として、議事要旨ということで、まとめさせていただいておりました。そういった関係もございまして、寸劇の内容を議事要旨ということでまとめるということの非常に難しさというのもございまして、条例に背骨を入れるという最後の一言だけは入れさせていただいたのですが、それ以外の部分はちょっと、まとめさせていただいたような形であります。

それから、ワークショップニュースにつきましては、発行は市民自治推進課が発行する形になっております。そういった関係で、市民自治推進課として取りまとめたものを、第3回を終えて、ということで載せさせていただいております。

以上でございます。

青木(有)さん ちょっと関連もするのですけれども、全体の発言の中で、3回目ですかね、2回目の議事の記録の仕方が非常に、私たちから見て、正確性を欠くところがあって、その発言がありましたよね。そういうことに対してどういうふうに対処するのか。それもちょっと、説明をお願いしたいし。先ほどの寸劇のほうですね。あれは背骨を入れるというか、寸劇が単に冒頭、会のメンバーの合意によって実施されたということは事実としてあるわけですし、そういうようなことは、やっぱりきちんと記録されないと、非常に便宜的に、いいとこどりみたいな感じで私なんか受けちゃうんですね。そういうところは全体としてはっきりさせて、その上で本ワークショップに入っていくような形にしたほうがいいんじゃないかと思うんですよ。そういうことを、全体で確認した上で進めるようお願いしたいなと思います。

ファシリテーター
(能率協会:白鳥)
青木(有)さん 1点目の議事のことにつきましては、本日、議事録という形で配らせていただいていますけれども、それは要約ではなくて、起こしという形での配布となっております。

青木(有)さん いや、2回目。第2回。これは3回目ですよね。第2回の議事が、非常に、私、見て、正確性を欠くと思ったのです。それは3回目のときにも、全体の中で発言があったと記憶されていますけれども、その取り扱いがどうなったんですか、ということ。

青木(有)さん 3回目はこれで正確だとすれば、それはそれで結構か、私は出てないのでわかりませんが、少なくとも、2回目についての記録が非常に、不正確な印象を受けました。そういう発言、あったでしょう。

ファシリテーター
(能率協会:白鳥)
青木(有)さん その点は合わせて検討させて。

青木(有)さん 検討？

洪田さん 申し訳ない、一言だけ。ほかの会議では、庁舎の会議等を含めては、皆さん、録音テープを撮っておられるんですよ。だから、必ず録音テープを撮られるように今回からされたらいかがでしょうか。そしたら、録音テープに書いていないようなこと、または録音テープに反するようなことを課の広報、推進課の広報として出すことは、茅ヶ崎市役所のいわゆる条例等に違反しますので、その点はリーダーさん、あなたが再チェックしてから、いわゆる議事録等を出すようにしていただければ、市民の目線で立った、市民の目線による会議になると思います。よろしくをお願いします。

池田さん すみません。ちょっともう1回確認なんですけれども、この第3回ワークショップのニュースなんですけど、その討議の結果は、市民活動推進課の職員の方が書かれたということによろしいんですか。結果、グループ討議の結果はどなたが書かれたんですか。

事務局(村上) 討議の結果、この内側の印刷の部分。これにつきましては、録音のデータをもとに、ファシリテーターをお願いしております日本能率協会さんで起こしていただいて、それを私どものほうで再度確認したという経緯で作成をしております。

池田さん 職員の方がまとめて書かれたということですね。テープ起こしをしたものを聞いてまとめて書かれたと。

事務局(村上) いや、聞いて確認をしたという。

池田さん 確認して書かれたということですか。

事務局(村上) いや、書いてはいないです、私どもは。

渋田さん だれが確認したかを言いなさい。課長が確認したんでしょ。一番責任者は課長で
しょう。課長が確認して出した文章ですとはっきり言いなさい。それによって市のほ
うの条例に基づいて課長の処分が決まりますから。

池田さん 私、そんな、難しいことを言っているんじゃないで。どなたが、これをまとめて書
かれたんですか、ということを知りたいんですよ。私はCグループなんですけれ
ども、Cグループの中で、こういう意見が出たのは事実なんですけれども、そのこと
をどなたが書かれたんですか、と聞いている。おかしい？伝わってます？

事務局(村上) 作成の経緯ということによろしいでしょうか。

池田さん そうです。

事務局(村上) 先ほどもご説明したとおりで、まず、日本能率協会においてテープ起こしをしてい
ただいて、その段階であくまでニュースライターなものですから、ページの制約もござ
いますので、そういう部分で、要約までしていただいています。それで、私どものほ
うでその内容に不整合がないか確認をいたして、それで発行をしているということ
でございます。

池田さん ただ、これを読むと、Cグループのどなたかが書いたと見えますよね。テープ起こ
しをしたものをファシリテーターの人がテープ起こしをしたものを、職員の方がこ
こにこういうふうにしたとは見えないですよ。これ、市民が書いたとしか見えない
ですよ。

Cグループの人たちの中で、だれかが代表者でこれを書いたと私は思ったんですけ
ど、そうじゃないんですね、ということです。

事務局(村上) それは、そうではございません。

池田さん でも、これを読むと、Cグループのどなたかが書いたんだって思いますよね。それは、
ここをまとめました、みたいなのはどなたが書きました、ということがないと、それ
はちょっとおかしくないですか。

Cグループのところでも、「行政へ私たちがいろんな疑問を出したにもかかわらず」
って書いてあると、これはCグループのどなたかが、きっとまとめて書いたんだと私
は思ったんですよ。それは、テープ起こしをして職員の方が書いたとは、これは見え
ないですよ。

事務局(村上) 申し訳ありません。ちょっとそういう認識がありませんで、その辺につきましては、
申し訳ございませんでした。

あくまで、表紙をご覧くださいますと、発行は茅ヶ崎市総務部市民自治推進課とい
うことで、こちらで発行しておいたものですから、どうしてもそういう認識があつた
もので、そういう視点で見直していなかったというところは申し訳なかったと思いま
す。以後、ちょっとそういうことのないように気をつけたいと思います。大変申し訳
ございません。

渋田さん この修正版を出しなさい。気をつけるというのはどういうふうにするということ
ですか。気をつけることは、形式、形容語じゃだめだよ。

池田さん どなたが責任を持って書かれたということがきちんと書いてあれば、Cグループの
だれかが書きました、とか、まとめました、みたいなことがきちんとあれば、私はい
いと思います。もちろん、市民活動推進課の方が書かれたんだったら、そういうふう
にまとめました、ということが必要だと私は思ったので、誤解を招くようなことはし
ないほうがよろしいんじゃないかという提案です。そんなに厳しいこと言っているわ

けではないと思うので、謝らなくて大丈夫です。

佐々木さん

同じような意見かもしれないですけども、これを見ていると、市の職員の方がまとめたというのはいいと思うのですけれども、そのまとめるのに当たって、発言の趣旨と大分ずれているようなまとめ方をされている部分があると思うのです。

例えば、私はAグループなんですけれども、Aグループで最後の2行目のところ、「職員の皆さんも、もっともっと参加して一緒になって話していければ」って、今までも参加して話しているのですけれども、要は発言の趣旨の一番重要なところが自分の見識と意思を持って参加していくということが市民参加の中での職員の立場で大事なんだね、という話が出ていたと思うのですけれども。その部分が抜けて、もっともっと参加するって、参加するって、いればいっていうだけに話じゃなくて、もっと自分が主体的に、主体となって参加するという、要は発言の内容の中で、その市民参加のルールだとか、市民参加に対する行政の職員のルールだとか、そういったものが全然、見識がわかっていないような部分がここに載っているのです。

要は、そういう訳し方ではなくて、ここは市民自治推進課なんですから、その辺の部分の最低限の市民参加だとか、市民参加においての職員の立ち位置のルールだとか、そういったものを守った形での要約をしていただかないと、だれが発言したんだってという話になってくるし。

少なくとも私はAグループとして、Aグループの人間であるけれども、こういうものを出すときに私の発言を載せないでくれ、という話になってしまうと思いますので、ぜひ、そのところ、見識を持ってまとめていただきたいし、趣旨をぼかささないようにしていただきたいというのをお願いしたいと思っています。

村中さん

すみません。このニュースをつくる、つくり方の説明とかが何も私たちにされていないので、問題が、私はあるなと思うのです。今回、グループ討議の結果というのは、私たちが前に出て、結果を報告した、その内容をテープ起こしをされて、されたんだと思うのですけれども。このグループ討議をそもそもして、余り、目的とか主題とか、きちっとしたものがよくわからないけれども、話してください、という感じでワークショップがされて、それを私たちが前に出て説明しなければいけないということも、最初に言われていたわけではなかったのにもかかわらず、急遽、することになって、皆さんの話の内容をきちっとここで伝えられたかどうかというのは、自分たちとしても、私も最初に言ったと思いますけれども、そういうつもりじゃなかったので、伝えられなかったわけですよ。

それを全部ここでテープ起こしをされて、こういうふうに書かれると、発表したほうとしては、すごく責任重大なんですよ。こういうふうに表示されるとは思いもしてないんですよ。

その辺のところは何も言われていないので、このまま、これをテープ起こしをして発表しますよ、なんて言われていないのにもかかわらず、ここに発言されていると、私が言ったことと、皆さんがもっと充実して議論をした内容とが少し違ったりするわけですよ。

その辺のところも全然断りもなくこういうふうに表示されているので、難しいところなんですよ。

どういうふうに表示されるかって、だから、ほかのところでもニュースをつくる場合に市民も参加して、これでいいかどうか、というニュースのつくり方を本来はする

べきだというふうに、そもそも市民参加条例をつくるんですから、するべきだと思いますので、ただ、これを単なる市民が見たら、自分たちがちゃんとまとめて書いたんだって、事務局は市民自治推進課かもしれないけれどって思えるような状況に、普通に読んだら思えるんですよ。

だから、ワークショップを終えて、というと、自分たちがワークショップを終えて感想を書いたみたいにも見られるんですよ。事務局がこの感想を書いて、ああよかった、ワークショップができてよかった、と書かれているんだと思うんですけども、私たちはちっともよかったと思っていないので、その辺の差がすごく出ているので、これの出し方をもうちょっと考えていただけたらいいなと思います。

佐々木さん

話が戻ってしまうかもしれないですけども、市民自治推進課、市民参加の窓口である市民自治推進課自体が市民参加というのを基本的にどう考えているのかという部分が、多分、行き当たっちゃうと思うんですよ。

要は、行政に都合のいい市民参加という部分ではなくて、その根本的な部分で、市民参加というのは今まで行政に事務を委託していた部分を、もう1回自分たちで市民自治として取り返そうねという話で、市民参加という思想が生まれているんであって、行政の都合のいい形の意見だとか、行政の都合のいい形のまとめ方をするというのが市民参加のアウトプットの出し方ではないというところが、本当にわかっているのかどうか。

その辺の根本的なところがどうなのかというのは、もう1回ちょっと、市民自治推進課の皆さん、意見を出していただきたい。逆に、グループ討議して意見を出してくださいという話になっちゃうんじゃないかと思えますし、ぜひ、グループ討議して、自分たちは市民参加どう考えているのかというのを、皆さんにつまびらかにしていただかないと、議論が進まないんじゃないかと思えます。

有竹さん

前回の記録を読んで、参加者という名前だけなので、これは別に、名前を書いてくださいという希望ではないのですけれども、私が言ったところほどこの部分なのか、よくわからないのですけれども、私は前回のときに、この紙を張るというのを賛同したのですけれども。賛同した大きな理由は、その前に和久さんが、ちょっと内容ははっきり覚えてないのですけれども、進行係のほうに要望したことがあったのですが。和久さんの言われることは、私はそのとき、もっともだなと思ったけれども、そのレベルで、多分、市役所の方もファシリテーターの方も和久さんの要望にこたえられる状況じゃないなって思ったんです。私はそのときに「無理です」って、声を上げたんですけれども、その無理っていうのは、彼らはそのとき、それだけの能力はないし、やる気もないだろうという意味の無理ですだったんですけれども、全部言ってなかったから、どういうふうにとられたか、わからないのですけれども。

前回の時点で、なぜ張るほうに私が賛成したかといったら、みんなが言っていることをみんなそれぞれの言葉で紙に書いたら、それに対してははっきりと次回までに答えてもらおうと、あやふやにされないで、ちゃんと答えてもらうことができるだろうと思って、私はみんなですべてをやってほしいとお願いしたし、皆さんも、じゃあちょっとやってみようかという話で進んだと思うんです。それで、さっき村中さんがおっしゃっていたように、グループでやっていたときに、だれかが最後、その日にまとめて発表するとかっていう話も、最初から言われていたわけじゃなくて、なんか流れの中で、だれかやんなきゃいけないからおまえやれ、みたいな感じで、何となく、時間も迫っ

ているからやっちゃったと。で、本当に、彼女が言ったみたいに、私も言っていて、本当はもっと深い意味で言われていたことの言葉とかを拾ってしゃべれたかどうか、私もAグループのほう、わからなかったし、流れをきちっと説明されないままに、こういうふう、今日、読んだときに、ああ、これって、私が言った言葉なのかなって、随分きれいにまとまっているなど、別な意味では感心しながら、本当にこっこの思いがどういうふうに伝わるかって、すごく、文字にするときっていうのはまとめてあっても難しいなというのは感じました。それで、ほかの方がおっしゃってくださったんですけども、私は前に出ている表をプリントされているほうのAのところの一番下のほうに正確な記録を、というところの最後のところに、2回目の記録からコントとか消えているのはなぜ、とか、それからあと、黒字のコピーが配布されたのは、きれいにするという努力をされなかったのはどうしてかということ、ここに書いたんですけども、ほかにもなんか質問あるんですけども。

こういうふうにしたことに対しては、当然、運営者側はAにかかわらず、A・B・Cの表に関しては、今日始まる前に、そういう疑問に対しては、こうです、ということ先言われてから、それを納得してから次の段階に行くと思っていたんですけども。ぜひ、そういうふうにしてほしいと思うのですが、そういう準備とか、その表を見て、さらに進行側の方たちはどういう検討をされたのかを教えてください。

事務局(村上)

資料のほうにつきましては、大変、黒字のコピーを先般お届けした関係とか、大変申し訳ございませんでした。

今回、ホームページにつきましては、すぐに修正をさせていただいたのですが、今回、資料の中に前回の差し替えということで、1回目と2回目の模造紙の白くしたものを差し替えとしてお届けさせていただきました。そのとき、事前に説明がなかったこと、申し訳ございませんでした。

有竹さん

私が質問したかったのは、なぜ、黒いのもいいと思って出されたかということなのです。訂正してくれるかどうかというのは、このほうがもちろん読みやすく、それはそれでありがたいことなんですけれども。普通の感覚だったら、ああいう、できるだけ意見を拾って、一緒にやろうと言っているときに、ああいう黒いを出す神経が私にはわからない。

どうして、それは、いや、ご自分たちはそれでいいとどうして思ったのかを知りたいです。

普通、絶対あんなことしないですよ。どうしてあんな読みづらいものを出しても平気なのかというのはベースとして知りたいですよ。それが、そちらの企画者のほうの心構えというか、心意気の違いとか、私も勉強していないから、条例の細かいこととかがわからないというのはすごくあるのですが、でも、わかりやすい資料を送るというのは、だれかがしゃべったことを上手にまとめられなかったかどうかというのは次の問題かもしれないのです。能力もあるけど。

でも、あれだけ見づらいものを平気で送れるというのは、全然それ以前の問題じゃないかと思うんです。

私はそれに対して、そこを気づかなかったのか、気づいて、気づいてても、もう日にちが間に合わないから、どっちにしろ、どうでもいいから出しちゃおうと思ったのか、そこら辺のことは、覚悟としてお聞きしたいなと思ったのです。そう思ったけど、やっぱり、今は反省してます、とか、なんかそういう言葉が欲しかったんですね。

この白いのを配ってくれたからいいという、言い方じゃなくて、言っている意味がわかるでしょうか。

全体的にその質問に対する答えが、それに似てるかなという気がするんです。コントとかがどうして抜けているかというのも、骨抜き、骨の部分を書いているというのじゃなくて、私たちは、なぜコントをしたと思ったかという、こちらの思いがあるんですけれども、それは、企画者側には当然伝わったと思っていたんですね。

でも、そうじゃなかったのかもしれないな、というのがあって、そういう質問を紙に書いておいたら、あそこにある、みんなで出したら、今日、それは私の質問だけじゃなくて、皆さんのそれぞれの質問に対しても、とりあえず答えてくださって、そこからまた再スタートできるんだと思っていた、そういうことではなかったのでしょうか。

高橋課長

すみません。私のほうから回答させていただきたいと思います。

そもそもの、まず、模造紙の黒かったということでございます。当初、資料がうちのほうに届いた段階で、黒いなという印象を持ちました。はっきり申しあげまして。そういった中で、何とか判読ができるなという中で、じゃあこれで、ひとまずお出ししろ、という指示を出したのは私でございます。

そういう意味で、どこを視点に置くかという部分のところで、ご指摘のとおり、本来であればもっと、わかりやすい形で、判読がしやすい形で出すべきであったなという形で反省をしているところでございます。

もう1点の、有竹さんがおっしゃっていた、一番大きな部分ですね。前回のきちっとした検証をした上で、次のステップに進むという部分と、実は私のほうも、その辺のところは、冒頭のところから、ワークショップをやるに当たって、いつでも参加できるという部分のことからいきますと、前回の振り返りをきちっとやって、それで、その日のテーマに入っていくという形のところ、お話ししたところでございます。

それをやっていかなければいけなかったところなんですけれども、会議録のまとめ等も含めまして、なかなか、2週間に1回という部分のところ、タイトな部分のところも、若干はあるのですけれども。なかなか、まとめ切れてなくて、資料のほうのお渡しも、基本的には1週間前にお渡ししたかったところなんですけれども、ぎりぎりになってしまったという状況でございます。

当初のお話に立ち返りまして、基本的には前回の振り返りをきちっとした上で進めていきたいというふうに、改めてお約束させていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

有竹さん

ありがとうございます。もし、それが可能であるとすれば、それには準備がいるんじゃないかなと思うんですよね。例えば、私たちが少なくとも3枚とか模造紙を書いた、それに対して、企画者側、進行者側はそれを読み込んで、これに対して、一応、次回の始まりまでには、どういう答え方というか、どういう解説をするかという準備がいたると思うんです。

それは次回から、今日からどういう進み方をするか、わからないんですけれども、してくださるとっていいわけですか。

高橋課長

はい。

有竹さん

それから、確認ですが、第1段階で、黒いコピーが来たというのは、コンサルがそのレベルだということでもいいですか。

ファシリ
テーター
(能率協会:白鳥)

そうです。すみません、そこは我々の責任です。

有竹さん

コンサルの誠意がないととっていいですか。

ファシリ

すみません。そういう結果になります。

テーター

(能率協会:白鳥)

有竹さん

それから、参加者として、そういうコンサルと一緒に、コンサルとして尊敬しながら一緒にできないという気持ちを、どういうふうに反映することができますか。

つまり、別なコンサルにして、ちゃんとやってくれるコンサルが私は望みです。進行の仕方も、私たちへの対応も、ちゃんと誠実にしてほしいと思います。前回のグループをやったときも、ぎりぎりになって、だれかが発表してくださいという、そういう解説の仕方も、すごく手順としても不誠実だと思うし。

やっぱり誠実にちゃんと対応してくれるコンサルを私たちに付けてほしいと思います。

佐々木さん

コンサルさん、かばうわけじゃないんですけどね。黒いコピーが来た段階で、高橋課長の発言で、これでとりあえず見るに耐えると。これで、一応とりあえず送って、ということで、その後、じゃあ、もっと見やすい資料を出せとか、提出するようとか、そういう指示を逆に行政側の事務局がしていないというのが一番の問題だと思う。

コンサルさん、仕事ですからね、それで、読みにくいかもしれないけど、とりあえず出しました。それで何にも言われなければ、それでやっぱり、仕事、いっちゃうんですよ。

だけど、そこでちゃんと行政職員として、もう1回しっかりしたものを出せという、フィードバックをコンサルさんにしてあげれば、コンサルさんのほうで新たな資料を出すとか、そういう形になると思うのです。

で、高橋課長の発言とは思えない部分で、「とりあえず出せ」っていうことは、それはいいんですよ。で、その後で、じゃあどうするんだ。もう1回出すのか、どうするのかという部分の発言が全く今、聞かれなかったというのは残念ですよ。

要は、これも強引にくっつけちゃいますけれども、情報公開の基礎の基礎ですよ。読みやすい資料を読みやすく出す。読みやすく情報を提供するというのは情報公開の基礎でしょう。要は、市民参加の考え方の基本となるのは情報公開と協働なんですよ。その部分が、本当にこれで行政職員、大丈夫なの、本当に行政職員、こんなことで市民参加条例、つくっちゃって大丈夫なの。

だから、僕は提案として、ワークショップはいいんですけども、行政職員がワークショップをやりながら、周りでクロストーク形式で、市民がその成り行きを見ながら意見を出し合うという形で、まず、市民参加について行政が基本的に何を考えているのかという部分を、まず、ワークショップとして、行政職員がワークショップをやって、それを、その周りで意見を出し合いながら1つのものにしていくという形じゃないと、まともな市民参加条例なんかできないと僕は思いますけれども、いかがでしょうか。

ファシリ

いろいろ、進め方にかかわるご意見がたくさん出ていますけれども。

テーター
(能率協会:白鳥)
何かありますか。

渋田さん
すみません。じゃ、一言だけ。
浜竹の渋田ですが。能率協会さんということで、ご司会、その他をされているのですが、全国的に有名な能率協会さんと理解してよろしいでしょうか。

ファシリ
テーター
(能率協会:白鳥)
有名かどうかはわかりませんが、日本能率協会の総合研究所でございます。

渋田さん
はい、私も40年ほど公務員をしまして、能率協会さんとお仕事を10回近くしました。そして、今日、ここで能率協会さんということで、同一の能率協会さんということだと、今まで経験をしてきました中で、すみません、A・B・Cとランクをつけたときには、ごめんなさい、Cランクになられると思います。
今までやってきたところはみんなAかBだったと思いますが。なぜかと申しますと、それだけ、国民または市民に愛された能率協会さんだったと思います。正しい市民の方に受けるように、または、市民の方に理解ができるような能率協会さんとしてのお仕事をされることを希望します。よろしくをお願いします。

ファシリ
テーター
(能率協会:白鳥)
よろしいでしょうか。コンサルを変えろという話から、進め方の話から、いろいろ、出ました。それから、ワークショップニュースのまとめ方というところもありましたので、その辺も含めて、ちょっとグループの中で、話し合っただけであればと思っ

渋田さん
その前、その前よ。

佐々木さん
もし、そういうことをグループで話し合うんだったら、基本的なことをお話ししとかなきゃいけないんですけども。
茅ヶ崎市の市民会議だとか審議会だとかいろいろ出させていただいているんですけども、結局、どんな優秀なコンサルが入ってきても、同じなんですよ。こういう状況になっちゃう。
というのは、事務局とのやりとりが全然できない。やれないから。それで、その行政側の事務局がいいと思っちゃうので、この状況になっちゃうんですよ。
だから、正直言って、僕はコンサルを擁護するわけじゃないですけども、コンサルよりも事務局、コンサルもそうなのかもしれないけど、事務局がどうコンサルを扱っていくかという部分が全然なっていないし、そこを改善しなかったら、だれつけても同じだなと僕は思います。

山下さん
前は、大分、決まったのかなと思ったら、何も決まってない。ただ、その、議論が空論に進んでいる。今回もそうなんだろうね。しかし、コンサルが何とかあってありましたけれども、私は実は、暇なこともあって、あちこちのワークショップに出ますが、マスタープランのワークショップは出ました。で、能率協会さんと一緒にやって、ある程度の結果が出たと思ってます。しかし、そのときに、1回、ワークショップをやる。それで、それも課題が出る。その課題について、能率協会さんと、そしておそらく担当の部課が討議して、そして、ワークショップで問題に出たのをフィードバックする、わかりました、それではこうしましょう、とか、そしてだんだん、1段階ずつ進んでいくんですけど、今回は何かまっすぐ、スーッともう、上がらないです、全然、段階が進まない。これは、おそらく、やっぱり行政のほうで、そういう段階を進

めなくて、スーツと何か、ワークショップを5回やる、6回やるといったら、6回スーツとやって、そして、やったという事実だけでスーツといきたい、いう気持ちがあるんじゃないか。

それで、前回、出ましたときに、高橋課長が「サイレントマジョリティ知ってますか」というようなお話があったから、おそらく反語で言えば、そんな市民参加条例に、この20人ぐらいでできるもんじゃありませんよ、と、そういうように言っていると思うんですよ。

だから、そのときに、私は申し上げたのは、市民参加の仕事をしてるのは、現在のところ、自治会が非常に多いから、130の自治会全部回って、そして、そういう市民参加条例に関してのお話をしてくださいと、そういうことをして、そして、サイレントマジョリティを減らしてくださいと言ったんですが、これ、何も書いてないです。

それで、ちょっとこう、一行だけ書いてあってね。本当は、やはりサイレントマジョリティにならないように、市の担当者は、全部、おそらく、だから、130の自治会長に連絡をして、1日に3つでも4つでもいいですから、回って、そして説明してほしい。

そして、こういうことでしたから、皆さんもこういうことですよ、という話をしてほしい。そうしないと市民参加条例は、これ、あってなきものだと思いますよ。

中村さん

今まで出ていましたけど、やはり問題は、市が、市民参加についてどのようなスタンスで臨むのかということなんです。

私の考えは、市のスタンスを根本から変えていただきたい。それは、市民参加というのは、何か、市が主体になって、行政が主体になって、その中に市民が参加して、というふうにとられているんじゃないかと思うんですが。基本的には、市民が主体で、その中に行政が参加していくということのほうが、むしろ、求められている姿だと思うんですね。

今までの行政主体の考え方を、そうじゃない、市民主体で、その中に協調、及び緊張関係を保ちながら、行政が参加していくと、そういうふうにとらえたほうが市民参加を有効に進めることになると思うのですが。そのところがどうもまだ違っているなというのが私の感想です。

その行政の基本的なスタンスをできるだけ早く示していただきたいと思います。

ファシリ
テーター

他にありますか。

(能率協会:白鳥)

和久さん

多分、今、皆さん、イライラしゃべっているのは、事務局のほうがもう少し丁寧に説明を、立場をはっきりさせなきゃいけないところが、課題がいくつか残っていて、市民の発言が続いているんですよ。そこに問題があるんじゃないかということで、そこをやはりもうちょっとはっきりさせるべきじゃないかと思います。

さらに、ちょっと僕のほうで確認しておきたいと思うのが、会議録、1回目と2回目ですね、今回の内容はともあれ、形としては詳細になっておりますので、こういう形のものにやはりすべきだろうと思いますが。

1回目と2回目もこのように作り直していただきたいと思います。この点の確認ですね。

それから、コントとか、それから、文書発言を含めて、全体の会議の中にきちっと

位置づけるという形で、会議録をつくることは十分可能ですので、これも含めていただきたいと思います。

それから、資料がずっと遅れているわけです。やむを得ない事情もあるかと思うのですが。ホームページへのアップなどは、アップしたら直ちにメールアドレスを持っている方には連絡をするという形で、できるだけ事前に、余裕を持って、資料を見て参加できるという対策をとっていただきたい。以上の点、ちょっと確認しておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

高橋課長

今、1回目、2回目の会議録について、要旨という形ではなくて、今回のような形でというご提案がございます。それは可能ですね。

ファシリ

可能です。

テーター

(能率協会:白鳥)

高橋課長

ちょっとお時間をいただくようになるとは思いますけれども、それは修正させていただきたいと思います。

ちょっと、ある方から言われたんですけども、会議録をこのような形で、かなり、細かく書いた場合に、発言者の部分のところ、今回、参加者という形で書かせていただいております。記名にしたほうが、さらにいいのではないかとというご提案をいただいているところでございます。その辺につきましては、後ほどで結構ですので、会議録の公表の仕方、ちょっとご議論をいただきたいと思っております。

それから、2点目の資料のメールでの送付という部分でございますけれども、まだちょっと、アドレス等を伺っていない方もございます。内容的に資料をメールで送るにはボリュームがあり過ぎて、市のメールですと、分割しないと送れない部分になりますので。アップをしたという内容につきまして、メールでご報告するという形はできるかと思えます。

必要な方につきましては、メールをお持ちの方ですね、もし、差し支えなければアドレスをお教えいただければ対応させていただきたいと思います。

いろいろと、事務局の運営の仕方が、というご指摘をいただいております。これはうちの方の市民自治推進課の取り組みだけでなく、全庁的な部分でのご指摘と認識もしておるところでございます。

その中でも、市民参加、あるいは住民自治という部分のところを率先してやらなきゃいけない部署でございますので、頑張っていきたいと思っておりますので、ご理解の方をお願いしたいと思います。以上でございます。

渋田さん

申し訳ございません。再度お願いを。能率協会さんと市との契約書があると思えますので、その契約書、これからまだ3回、4回と開催がされますので、私たちの発言も、その契約書を見て、ご回答その他を考えなければいけないと思えますので、契約書のコピーを公開されることを希望します。

ただ、司会だけをしろというような契約になっているのか、この報告書を取りまとめるのは能率協会。私も随分、能率協会さんとお仕事をしましたが、非常に優秀な方が大勢おられると、今でも思っていますので、今日お出でになった先生も優秀だと思えますので、契約書の公開をされると思えますので、できるだけよろしく願いいたします。

無理だったならば、市のほうから契約書を出すようにと強い要望を出されることを希

望します。よろしくお願ひします。

佐々木さん

それで、3 回目の議事録、出ているんですけども、グループ討議の中の議論に関しても、やっぱり、ないでしょう。だけど、グループ討議の中の議論についても、やっぱりこれ、発表されるのであれば、発表された意見の経緯だとか、そういうのがやっぱり知りたいと思うんです。

だから、グループごとの討議内容というのがどうなっているのかというのが、全くブラックボックスだと、グループ討議に分かれることがかえってデメリットになっちゃう。こういう意見が皆さん、出ているんで、同じだね、とか、ここは参考になるね、とか、そういう話が見えなくなっちゃうっていうので、グループ討議、デメリットなんですよ。デメリットを解消するためには、やっぱり、各グループの発言内容もすべて拾っていくというのが原則というか、そういうやり方というのがあるんですけども、ぜひ、そういうやり方にさせていただきたいと思うんですけども、いかがでしょうか。テープ、3 グループ分、分ければ、同じようにテープ起こしできると思うんですけども。ぜひ、これを、ぜひというか、絶対やっていただきたいと思います。以上です。

ファシリ

テーター

(能率協会:白鳥)

すみません。先ほどの、今の、グループごとのワークショップの意見というのは、基本的にはテープ起こしはしません。

佐々木さん

それだったら、グループ討議、無意味にある、デメリットになっちゃいます。

渋谷さん

そんな能率協会じゃなかったよ。

佐々木さん

やれる、やれないじゃなくて、やってください、ですよ。やらないんだったら、グループに分けてほしくないです。

ファシリ

テーター

(能率協会:白鳥)

グループ討議の可否のところについてですけども、すみません、どうでしょうか。また最初の議論になりますが。

渋谷さん

昔は速記、やってくれたんだけどね、協会の人。それからテープになって、テープレコーダーになったんだよ。ということをおわかってると思うよ、能率協会のあなたが。グループに分けたら、テープとらないと言っている、それはだめだよ。

青木(有)さん

我々が、じゃあ、全体会でやりましょうというふうになれば、それを全体会に切りかえるということなんですか。事務局に確かめたのか、確認したのか。時間的な問題があるということがあって、難しいところなんですよ。我々が全体会で全部やっていこうよ、となれば、それでいいという契約なんですか。

ファシリ

テーター

(能率協会:白鳥)

基本的に、今回はワークショップで市民の意見を述べるというところが、基本的には前提になっているんですね。

青木(有)さん

でも、話れたじゃない、今。

ファシリ

テーター

(能率協会:白鳥)

だから、そういうところの意見を踏まえて、すれ違いがあるわけじゃないですか。そのすれ違いをどうするかというところを、多分、この会として投げかけるためのグループ討議をしていくというふうに理解をしています。

青木(有)さん

今、あなたが言われたのは、グループ討議じゃなくて、全体会にしますか、ということをお問ひかけられたでしょう。佐々木さんの発言を踏まえて。

それで、いや、我々は全体会議でいきましょうという意見が多数だったときに、そ

それがそういう形に変わっていくんですか、ということを私は今、確かめたんです。そしたら、高橋さんが、こう、首、振ってましたよ、今。だから、そういうところ、どうなのか、事務局に確かめればいいですよ。我々に確かめたら、じゃあ、それでいきましようとなった時に、それが実現するんだったら、そういう投げかけがいいわけですよ。

ファシリ

すみません。説明が不足していたと思います。

テーター

(能率協会:白鳥)

前回、高橋課長からお話があったように、今回はワークショップの中で、市民参加条例に関する意見をまとめてほしいということだったと思います。その結果をまとめる時期のおしりについては、5月とか4月に限らないと。その後、条例案を市民と行政がすり合わせる、そのやり方については、いろいろ工夫があるということだと。

その意見交換の方法等を含めて提案をしたらどうだというふうに考えます。

その段階になったときには、いろいろな進め方があるのではないかなと私は理解していますけれども。高橋課長の方から何かありますか。

高橋課長

すみません。会議の運営の関係につきまして、改めて確認をさせていただきたいと思います。

今回このような形で、ワークショップ形式でという部分のところのお願いをしているのは、できるだけ多くの方のご意見を出していただくという部分で分けていただいているところがございます。

全体会議でやりますと、どうしても、限られた時間の中でという形になりますと、参加した方、必ずしも発言することがなく終わってしまう場合もあるというところがありますので、グループの中でやれば、それが少しでも対応ができるという中で、グループでお願いしているということがございます。

先ほど、ワークショップの中の会議録、録音をきちっととって、テープ起こしを、という部分もございました。前回も、それぞれのグループの中で、付箋でもって発言の内容を記載していただきまして、模造紙にまとめて、最終的にはその議論の内容の大まかなところを代表の方に発表していただいたという形で、その付箋の内容につきましては、それぞれのグループの付箋の貼った内容、電子化はしましたけれども、基本的に模造紙に書かれたものを忠実に再現してお配りしたという部分がございます。

そういった中で、各グループでの話している内容につきましては、一定の部分は共有ができるのかなと認識しておるところでございます。

さらに、細かいニュアンスのところ、発表者の方も全部を発表できるわけじゃないというのもございます。確かにそれはそのとおりだと思います。ワークショップの中での会議のやりとり、これにつきまして、付箋に書かれなかった部分、具体的なお話の中での部分というのがあるかと思えます。そういったところにつきまして、会議録形式ではなくて、その付箋のところコメントとして加えるような形で、対応ができるかなと私は認識しておりますので、基本的にはそういうふうな形で、今回ちょっとその録音の対応ができていないと思いますので、次回以降、そういうふうな形で対応していきたいと考えております。

さらに、前回もちょっとお話ししたんですけれども、板書したものについての確認をお願いしているところがございますけれども、今日はちょっと、板書ができておりません。そういった中で、できるだけきちっと記録をとって、限られた時間ではありますけれども、その内容をご確認いただいて、という形で、資料の方を作成して、お

示していきたいと思っております。

ワークショップニュースにつきましても、市の方の作成という部分はございますけれども、もうちょっとわかりやすく、責任の所在っておかしいですけども、どのような形になっているのかという部分は明示していきたいと思っております。

今回のワークショップの中の各グループの部分のところですけども、基本的には議事録の方に発言した内容、要旨ですけども、書かれておまして、それをさらにピックアップしてニュースのほうに載せているという形で、今回作成、お配りしました資料、一通り見ていただきますと何とか全体のほうが把握できるという形になっていまして、ちょっとそれだと、1つの資料を見て把握できるような形に本来しなきゃいけないのかなと思っております。

その辺のところ、一番大事なのが、このニュースなのかなと認識しますので、この辺のところは、ファシリテーターのほうと詰めていって、もうちょっときちっとわかりやすい、なおかつ正確さを求めていきたいと思っております。以上でございます。

佐々木さん

本当に失礼ですけども、やれない理由、やれない言い訳だけ並べていません。高橋課長。

できないんじゃないで、やらなきゃいけない。で、発言の内容を書いたって、発言、グループの中でしている内容というのを、すべて、やっぱり書けるわけじゃないし、グループに市の職員を入れて話をしてもらおうっていった内容というのが、最終的に抜けてしまう可能性だってあるし。

その部分、やっぱり、僕らは市の職員に発言の内容にも、グループ討議に加わった段階でも責任を持ってもらいたいし、責任を持った中で独自の意見を出してもらいたい。その中で、市民と一緒に条約をつくっていくということ、やってもらいたいために、グループ討議で発言の機会を多くすることは納得しています。

だけど、ワークショップ自体が、グループ討議だけがワークショップの手法じゃないですから、ほかのやり方だってあるわけで。全員でやるっていうのも1つのワークショップで、で、だれかが模造紙にまとめて、発言内容を確認するというワークショップのやり方だってあるわけです。

ワークショップがイコール、グループ討議という話ではないという部分もありますし、グループ討議であれば、グループ討議の話の内容をちゃんと漏らさず議事録の中に記載することが、やっぱり最低限、必要じゃないかと思います。

これで要約して載せているからいい、という高橋課長の発言に対して、私は絶対に反対します。

渋田さん

浜竹の渋田ですが、申し上げます。私は部落解放同盟の方たちと能率協会の方たちと一緒に仕事をしたことがあります。そのときは、九州とか四国とか関西とか、いろんなところからおいでになった代表者の方とお話し合いをすることになって、相手方とお話した結果、やっぱりそれぞれの地区のことが、よく理解できるように、基準で分けけて、お役所の方と、それから、その能率協会の方にまとめてもらいたいということで、分けけたことがございますが。今回、この茅ヶ崎市という1つの地域の中の人たちが、皆さんが言うておられることについて、なぜグループ分けをしなればならないかという基準がわかりません。なぜかという、九州の方と四国の方と関西の言っている方のいわゆる要求されている内容が違っていたので、改めて、相手方と相談をして、能率協会の方もご参加いただいて、分けをした例がございます。

今回、ここで皆さんがここで出席されている方がみんな茅ヶ崎市を愛される方たちですので、よろしく能率協会の先生お願いいたします。

区分けはしない方がいいんじゃないか、発言時間を短くすれば、それで皆さんの意思も伝わるし、それで発言が足りないところはメモを出すということも考えられると思いますので、いわゆる区分けをする基準を正しく皆さんがご理解できるように、能率協会の先生、司会者もよろしくお願いします。すみません、長くなりました。

山下さん

先ほどの、サイレントマジョリティのお話に戻りますが、私が先ほど、サイレントマジョリティをできるだけサイレントでないようにするために130の自治会を全部行政の方が回って、そして、市民参加条例に関して説明をして意見を聞いてほしいということをお願いしたのですが、高橋課長は何の答えもない。どうなんですか。そういうお考えはあるんですか、そういうことです。

高橋課長

山下さんからのご提案でございますけれども、どの段階で自治会の方に話をすべきかという部分のところもでございます。

自治基本条例の16条の中には市民参加という部分のところは、基本的なルールが書かれております。ですけれども、市民参加条例を、条例の形態にするにあたって、どんな形のものにするのかという、まだ、本当の入り口の基本的な部分をこれから、こうやって手を挙げてご参加いただいた方たちとまずやってみたいと。

その後で、粗粗な形になって、それを地域の皆さんに投げていきたいという考えはあります。どのタイミングで出るのかという部分のところ。今の全部の自治会を回って説明して、意見を聞くのは必要だと思います、私も、ただ、どのタイミングで出るべきかというのは、今後、皆さんとの議論をした上で、やるべきものだと思いますので、現時点でのコメントはしなかったというところでございます。ご理解いただきたいと思えます。

山下さん

高橋課長のお考えでは、そうすると、ある程度の段階で行政が130の自治会を回って、ちゃんとお説明願うんですね。それなら結構です。

和久さん

ワークショップの進め方についての意見を述べたいと思えます。

1つ、先ほどの発言の補足なんです、高橋課長から言われて思い出しました。会議録の作成のところ、参加者の名前をと、発言者の名前をと、前回の会議の後、高橋課長のところへ寄る機会がありまして、そのときにそういうことを皆さんに提案したらどうだろうと発言をした経過がありまして、僕としてはやはり、会議録をできるだけ正しく書くということと合わせて、発言者をきちっと載せた方がいいだろうという提案をいたしましたので、ぜひ、ご検討いただきたいと思えます。

それから、ワークショップの進め方そのものについては、佐々木さんからも再三、指摘されておりますように、できるだけ詳細な記録が皆さんに提供されるということをするべきだろうと思えます。

しかし、進め方自体は、このようなワークショップでグループに分けて、できるだけいろいろな議論を広げたり深めたりするという努力は一定段階までやはりやった方がいいだろうと僕自身は思えます。

ただ、最後のところで、案をつくるというか、固めていくというところでは、必ずしもワークショップが適切ではないという段階があると思われまので、そういうところの段階で、全体で判断するかということはあると思いますが、そうした全体討議と、それから、ワークショップという、グループ討議と、適切に相談しながら活用するとい

うことで、効率化を図った方がいいのではないかと僕自身は思っています。以上です。

有竹さん

質問なんですけれども、ワークショップってどこを指しているのでしょうか。なんか、今の話を、いろいろ皆さんのを聞いていると、使い方なんですけれども、グループに分かれて紙を出して張る、それがワークショップですか。それとも、こういうふうに行っていることもワークショップですか。

それで、1回目から今日までのこと、全部は、私はワークショップだと思っているし、それから、あと、話が重複しているけれども、みんなが一見苦情のように思える意見を出していることは、すごく貴重で当然のことを言っていच्छるし、決して流れている話だとは私は思いません。

それからあと、今、高橋課長が「ご理解ください」っておっしゃいましたけれども、山下さんが最初にお聞きになった時は答えられなくて、次のときに説明してくださったから、あ、そういうふうを考えているんだなって、それで、私もわかりましたけれども。やっぱり、何か答えてくれないと、全然そういうことは範疇にないのかな、とも思うし、短くても解説していただかないとわからない。

全部がワークショップって考えていいんだとしたら、あと、紙張りもグループに分けて紙張りをするのがワークじゃないとも思うし、それからあと、今日みたいなときは、出していた意見をそれぞれ、大きなあれで、パッパッパッって張って行って、いろんな意見が分類されたりとか、あと、意見としてとりあえず言っといたらいだけのものか、それから、あと、行政の方に答えをちゃんと、今か、次回までに出して、答えてもらわないと次に進めない、と思うようなものを、羅列じゃなくて、分類しながらでも、分類の仕方もちよっと課題があるかもしれないけれども、出していただいたら、ちよっと、重複してもわかりやすいかなと思うんです。

でも、ただ、どういうふうに進めたらいいかは、みんなでやりやすい方法というか、よりよい方法を検討できたらいいなと思います。

ファシリ

テーター

(能率協会:白鳥)

それで、今の意見も含めて、その材料となるものが基本的には前回、各グループでやった、模造紙をコピーした資料の4の13になると思うのですがけれども、ここである程度の材料は出てきていると思いますので、できればそれをもう少し整理したり、深めたり、あるいは、グループの中での、ここが大事だということ、もう少し整理していただければと思っています。

ということで、今まで出たいろんな進め方の話も含めて、ちよっともう、時間も余りなくなってきましたけれども。

佐々木さん

すみません。それだからって、拙速にグループ討議に進むっていうのは、やり方が少し強引じゃないですか。グループの中の発言を網羅した議事録をつくるのか、そうじゃないのかという、解決していませんし、その部分が今日できるのか、できないのか、という部分も解決していませんし、それを解決しないで、じゃあ、もう1回グループ、それも含めてグループ討議をしましょうっていうのは、それは進め方としてファシリテーター、強引じゃないですか。

有竹さん

佐々木さんが、グループの録音を録れと言っている意味が、私は正確にはわからないんですけれども。例えば、この模造紙の紙をコピーしてもらったCグループのところの真ん中の方の真ん中に、行政の説明責任という言葉があります。これを見たときに、第三者である場合は、このカードを出した人がどういう意味合いなのかというのは、これだけではわからないのです。こういう意見が出たんだっていうのはわかるけ

れども、どういうニュアンスで、茅ヶ崎市はこれが非常に充実しているから、ますますやってくれと言っているのか、はたまた、全然違うのかというのはわかりません。

その場合は、録音が録ってあったらよりわかる。で、もし、どうしても、私は、多分、録音録るのは、進行する人は面倒くさいんだろうなと思っているんですけども。もし、そういうことに対する不安を1つ解消する方法だったら、やっぱりやる、やり始めるときに、最低のルールをきちっと解説してくれるべきだったんじゃないかと思うんですね。

書き方として、私があのととき聞いたのは、1つの中に1つの内容だけ、と聞きましたけれども、1つの中に最低、主語と動詞とか、はっきり、それが第三者が読んでもわかりやすいような表現で書いてほしいとか、そういう書き方を、言われたらこれを書いた人はもっと違う書き方をなさったと思うし、第三者が見てももうちょっとわかりやすいかなと思うのです。

それからあと、こういうまとめ方も、だれがこういうまとめ方をするかによっては、すごく生きてくる、カードが変わってくる。そのときに、やっぱり振り返るんだったらテープがあった方が、あ、その違いなんだ、というのがわかったりするかな、とか思います。

反対に、私は別に今、映像を要求しているわけじゃないんですけども、全体のメモのコピーの中の5ページの上から3行目、ごめんなさい、上から1行目から3行目までに、ここに書き出して、それに対する答えというのは次回までにきっちりとした答えは必ずもらおうとか、そういう進め方とかでどうでしょうか、と、これ多分、私が言った言葉だと思うんですけど、このときに、多分、高橋課長は、うなずかれたような気がしたんですね。

そのうなずきっていうのは、ここには入っていないし、うなずいたように思ったのは私だけで、本当はうなずいてなかったかもしれないんですけども。だから、私はそのうなずきを見て、あ、これだったらやってもらえるって、次回までには答えがもらえるんだって、じゃあ、やろうよね、という気持ちにはなったんです。私も、心理的には。でも、いや、それは私がそう思い込んだのかもしれない。だったら、1人1人の顔の表情まで撮ってないと、本当はどうだったのかわからないし、ということになってしまうのですけれども。だから、そういうつもりで言ったんじゃないようにとられちゃっているというのは、お互いにいっぱいあるんだと思うんですけど。だから、書くときも指導してくれる方は、カードを出すときの最低の注意点というか、ルール点みたいなこととかも説明してほしかったし、そういう意味でも、ちゃんと信頼できるファシリテーターが欲しいと私は思ったわけです。

佐々木さん

有竹さんが言ったとおりで、数、書かれた内容の趣旨だとか、裏に隠れているものというのはわからない。で、小集団活動で、このカードを使ってというKJ法だとか、魚の絵だとかというのが用いられているのは、その小集団で1つの問題を解決する。で、ほかの小集団は別の問題を解決するんであって、この中で端的な意見としてまとめられた、細かいことの中の背景がこうだっていうのを、小集団の中で認識して、1つの問題を煮詰めていくというのが本来の小集団のグループ活動であって、こういう小集団のグループ活動で求めているものが同じものを同じ結論を求めているような同じ議題をテーマを解いていこうとする小集団が2つも3つも同一にあって、それを最終的に同じ検討の大集団の中で意見を出していくという意見化していくにあたっ

ては、その小集団の中の細かいことに、その人が何を書いたかという具体的な背景だとか、その意見に含まれる諸々の感情だとか、そういうものが共有されていないと最終的な意見形成にはならない。

ですから、そういう意味でも小集団の中のグループ討議にもグループ討議、反対だと言って言っているわけじゃなくて、全員このワークショップの全員が共有できるような言葉がわかるようにしてほしいと。だから、ちゃんと記録をとってくれ、と言っている話です。で、それができないのであれば、グループでやっている意味がないと、私は言っているだけの話。

ファシリ
テーター
(能率協会:白鳥)

ありがとうございます。私の意見では、意見というか、考え方ですけれども、基本的小おっしゃるとおり、これは第1回目の意見出しということなので、それだけでは言葉足らずのところもあるだろうと思います。

また、これは1人1人が出した意見ということになっていますので、それをグループで、ここはそうだね、ここはどうしても落としちゃいけないね、というところを詰めていって、提案にしていっていただきたい、というイメージを考えていたところでございます。小グループごとに違うテーマというやり方も、そう、それはそれであるんですけども。

佐々木さん

だから、それがこういうTQCを基本とする小集団グループの基本的な問題解決手法として、小集団グループのワークショップがあるわけでしょ。今回はそうじゃないわけですから。要は、個々の小集団の中で日常、抱えている問題点を消化させて解決策を導き出すのが本来の小集団活動であって、市民参加条例をつくるためにという大前提があって、ということの小集団活動においては、個々のグループの発言を全体に共有させなければならないんじゃないかって私は言っているんですけども。

ファシリ
テーター
(能率協会:白鳥)

はい、そういう場面も多分必要だと思います。

で、小集団で1つずつ例えば、違うテーマでやるとすると、その中での6名なり7名の意見と。違うグループで同じことを話せば、また違う発想からの違う意見も出てくる可能性があるという中で、最初は同じテーマでグループごとに話すということも意味はなくはないというふうに。

佐々木さん

いや、意味はあるんですよ。だけど、その発想の背景が何にも記録がなかったら、他のグループはわからないから意見の出しようもないし、ああ、そのグループはそう考えているんだね、しか、とれないよ。

だから、そうじゃなくて、意見を共有させたいんだったら、各グループごとの発言もきっちりと網羅させなければ、グループ討議にならないよ、と僕は言っている。

ファシリ
テーター
(能率協会:白鳥)

情報の共有を全体で、ということですね、はい。

村中さん

今日も時間が多分なくなっちゃったので、もうグループ討議はできないと思うのですけれども。先ほど、有竹さんが言ったみたいに、私たちのグループはこういうふうにはポストイットに書いて、自分たちで書いたわけではないんですね。ファシリテーターの人が書かれたんです。そこのところもどういうふうに、こういうふうなまとめ方をするかっていう話も最初になかったんです。

たまたま、初めて参加した人がいらっしまったので、その初めて参加した人がいろんな質問をされたんですね。市民参加の今の現状について、みたいなところで。それ

をいろんな人たちが説明をしてあげた、みたいところを、ファシリテーターの人がまとめられた、という部分があるので、多分、内容がよくわからなくてまとめてらっしゃるので、さっき有竹さんが言ったみたいに、行政の説明責任みたいな1個になっちゃったんだと思うんです。

それは一番最初にどういうふうにこれを進めていくかそれで、課題が何なのか、問題が何なのかというところが全然明確でないけれども、いつも高橋課長が言われているように、だれでも参加して、何でも話してください、気軽にというやり方でやろうとすると、そうなるわけですよ。

それは、ポストイットに書く必要があるのかどうかというところで、先ほど言われたように、議事録をとって、そのグループでもし、どうしてもグループじゃなければ発言ができないという方がいらっしゃるんだったら、そういうところでいろんな話し合いをした結果を、またテープ起こしをしてまとめていくというほうがよっぽどお互いに関わり合えたり、言い合えたり、議論ができるわけですよ。

でも、そういう状況、私たちのところでは、そういうふうに初めてだっていう方がいらっしゃるんで、いろんな説明をみんなでし合って、こういう結果になって、こんなふうにまとまるなんて全然思いもしないので、結果的にこうじゃなかったんじゃないか、というところもいっぱいあるわけです。

それをまた、今日、同じグループに、たまたま中村さんはこっちにいられたのに、向こうに行かれたんだけど、同じグループで、また新しい人が入られて、さあやりましょうって言われても、わからないんですよ。

グループで、もしどうしても、そのワークショップがグループでやらなくちゃいけないと思込んでいらっしゃるんだとするんだらば、もう少し、小さい議題をちゃんと用意して、今日は審議会についてとか、今日はパブリックコメントについてとか、そういう話し合いだったら、その今の現状とか、問題点とか、課題とかという出し方ができて、それをまた全部で共有して話し合うということができると思うんです。それをやった後に、一番私は重要なのは、ここに書いてある基本方針の基本原則とか基本姿勢が、そもそも、もう間違っていると思っているので、その辺のところをまとめていく、基本になるのではないかと考えているのですけれども。

その辺の考え方が一番もう、もともと、行政側と市民とが違うなと思うので、議会に出されたところで、議会のところの市民参加というのが、この基本方針の中にあるパブリックコメントとワークショップが重要だって、それでやっていくと、もう決めていらっしゃるんで、そこから出られないんじゃないかと思うんですね、事務局のほう。

だけど、そうじゃなくて、もうちょっと、私は今日、ちゃんと議題がきちっと出てくると思っていた。でも、それも何もないので、こういう結果になってしまったと思うので、もうちょっと、事務局とファシリテーターで考えて、進め方をきちっと見えるようにしてほしいんですけれども。じゃないと全然わからないです、これのやり方が。

浜田さん

浜竹の浜田です。一言だけ。たまたま、皆さんにもお渡ししたいかと思っていますが、茅ヶ崎市の行政機構に基づく職員配置表というのを市のほうからいただきました。それに基づいて、ちょっとご説明をさせていただきます。

今日あります、市民自治推進課、高橋課長さんのお部屋の課は、前は、別な名前で

ありましたね、高橋課長さん。それで、そのときは活動課になっていまして、今の課になられたのは22年の6月1日現在のこの表になっておられて、課長さんはこの課に2年ほどおられましたね。課長補佐の方は変わられましたね。そのことをお話することは、すみません、私も能率協会のことをよく知っている関係上、能率協会さんも受けるにあたってお調べください。そして、正しい日本の茅ヶ崎市の自治に、自治推進、いわゆる、僕は市民自治というのは大切だと思っている。それにかなうようにまとめてください。お願いいたします。

高橋課長さんの方からのご回答については、3年で課長が変わるのが原則でございますので、今年変わるんじゃないかという形もありますので、何とか、自分がここで、いや、市民課長から変わられて、市民課長でマイナス点があったことは事実ですので、ここで何とかプラスにしないと部長になれないという意向で、こういうことをされているように思われますので、合わせて、能率協会のほうには、申し訳ございません、確かめることをお願いします。要望でございます。

有竹さん

すみません。Cグループの岸田さんがファシリテーターというか、コンサルで入られて、質問です。皆さんの意見を岸田さんがカードに書かれたんですか。で、そういうふうに進めるということは、コンサル同士の事前の打ち合わせで、そういう役割をするということになっていたんですか。

私は、今日、さっき、村中さんがおっしゃるまで、このカードは個人個人が書かれたんだとばかり思っていたんですね。私たちのグループは個人個人が書いてまとめるといふか、枠組みをつくったのはコンサルの方だったんです。だから、ほかのグループもみんなそうしたんだと思ったんです。

で、それは、そういうことの統一というか、前回どういふふうに進めるかの下打ち合わせというのはしなかったんですか。何しろ紙ができあがればよいという。

ファリシ
テーター

(能率協会:岸田)

では、私から。ワークショップといいますか、グループ討議のやり方について、下打ち合わせをしています。その中で、各人に最初にポストイットに書いてもらって進めるのか、あるいは、私たちのグループ討議の方についている者が書いていくのかといったところは、ある程度、自由という話です。

有竹さんがおっしゃるように、統一的なルールがなかったことは、この場で申し訳ありませんと、お詫びいたします。そういった進め方でいきたいと思いますという話をしていの中で、私、Cグループに入りまして、私が書いたという状況です。

最終的に、配布資料のようにまとめまして今日、グループ討議に入りましたら、最初に前回の振り返りをさせていただいて、この内容でよろしいかどうかという、あるいは漏れがあれば、加筆していきましょうということで進めようと思っていました。

青木(有)さん

ちょっといいですか。今の関連で、私、今、見てて、ここ、書いてあるんですけどね。このポストイットでは、行政、説明責任。その下に、反論がない、反映しないと書いてある？ここに書いてないじゃない。だからわからないということもある。

ファリシ
テーター

(能率協会:岸田)

お答えになりましたでしょうか。

有竹さん

大丈夫です。

ファリシ

基本的には各メンバーに書いていただいています。ただ、議論の中で、話の中で、

テーター
(能率協会:白鳥)
渋田さん

これは落としちゃいけないキーワードだなというところがあれば、書き足すということも進め方です。

再度、申し上げます。庁舎の建て替えの委員会も今日、午後、2時からまたありますが、その委員会であっても、ちゃんと録音テープをいわゆる市側がつくって、または参加者が自分で持ってきて、いくつもの録音テープが録られています。分科会になったときも、録音テープがそれぞれA・B・Cグループに、市側の録音テープと、それから、参加者の録音テープがありました。今日午後もまたそのようになると思います。これしかない、わずかな市の参加者で、茅ヶ崎市のために、よくしようとする皆さんの声が消されて、録音にも乗っからないで、ある一定のニュースか何かで流れるということは、24万人の市民のためにもならないことと思いますので、能率協会さんの方でご判断をよろしくお願いいたします。

世界に、私の考えですが、私の得ている知識ですが、日本の能率協会さんというのは、アジアを含め、世界に冠たる能率協会と聞こえていますので、よろしく申し上げます。

ファリシ
テーター
(能率協会:白鳥)

ちょっと今日は、もう11時半も過ぎましたのでグループ討議はちょっと難しいと思います。

前回の各模造紙のところの意見を見ますと、大きくは、これまでの市民参加の課題といったところ、それから、今後の市民参加のあり方とか、あるべき考え方というところが出ています。それから、中には審議会といったところとか、具体的な市民参加条例の内容に係るご意見もあるかと思います。

次回につきましては、まず、大きいところの、これまでの市民参加の課題といったところ、それから、それを含めて、踏まえて、今後の市民参加のあり方とか、基本的な考え方として、大事にするべきところというのを議論していただく方向で考えようかと思います。進め方につきましては、また、市さんとも相談させていただいて、検討をさせていただければと思います。よろしいでしょうか。

佐々木さん

グループ討議の記録をとるとするのは、皆さんの意見も、どうなのか、聞いてみたらいかがですか。

ファリシ
テーター
(能率協会:白鳥)
青木(有)さん

グループ討議の中のグループのそれぞれの記録をとるかどうかというところについては、皆さん、どうですか。

聞こえなかったんで、すみません。

ファリシ
テーター
(能率協会:白鳥)
石塚さん

グループ討議の各グループの中の議事録の詳細版を出したほうがいいと。議論の背景がわかるから、というご意見がありましたけれども、それはどうですか。

できたほうがいいことはいいよね。可能ならそれがいい。

簡単に言うとき、内容ね、これと内容違うじゃないかと、内容がね。サイレントマジョリティ、うちは話をしてないんで、全然。だけど、うちの中に入っている。おかしいね。だれが言ったの。うちの中にいないのに。それから、文章が途中で集約されたりするから、趣旨が違ってまとめちゃってるから、非常におかしいねというのがいろいろあるわけです。

だから、要は、きちっとした議事録がない限り、まとまらないわけですよ。で、話が、でかい話をしているのに、ちっちゃい話書いたら、また余計わからなくなっちゃ

うし。だからやっぱり、きちっとグループ討議やるのであれば、主題を決めて、その主題に基づいて論議する、資料をね。

ですから今日、もう時間ないから次回は何をやるかってグループ討議で話しして、その分でやるよっていうだけにしといてもらいたい。テープとるというぐらいにしとかないと、話が進まないんじゃないかと思えます、実際に。

要は、だれが適任で、だれがやるの。つまり、討議した話と、グループで責任持ったんだったら、グループのメンバー、責任だよっていったときに、出てない話に乗ったり、出た話が出てないといったらおかしくなるでしょう。

それを、ファシリテーターが悪いの、グループが悪いのって、おまえの声がちっちゃ過ぎるぞ、というぐらいに言われているようで、非常に不愉快ですよ。

私も自分の母親が亡くなって、大急ぎで帰ってきたんです。帰ってきて、さあやるかと思って資料を見たら、全然進んでないし、今日やる気ねえなって思ったんだけど。案の定、そうなっているからね。やっぱりもうちょっと、市民の目線できちっと対応してほしいし。今日は、行政から今まで1、2、3回での課題を少しは、立ち位置か何か資料が出てくると思ったけど、また、延びてる。必ず次回からは職員を入れますって言うておいて、この間から暫定的に事務局が入ってやったけれども、その事務局もまた数減っているしな。

そういうことで、本当に姿勢自体、立ち位置がよくわからないと。そういう部分であれば、逆に言えば、今日の部分は意見混合で、この会議のワークショップが成立しませんでした、というぐらいに議事録に書いて、第4回は停止するぐらいにしないと、全然行政がおかしいよと。ファシリテーターが責められましたって、仮にさ、書けるか。今回、次回、その第4号に。そういう話になっていること自体がおかしな話じゃないですか。もっと、きちっとけじめつけて、事務局と話し合ってやってもらわない限り、おりますっていうぐらいにしないと、やばいと思うよ。私はそう思います。

ですから、逆に言えば、時間がないから、何をやるかを決めるだけは、それぐらいにしといてもらいたいと思えます。

山下さん

今のそのAグループで、サイレントマジョリティのことが全然出てないとおっしゃったのは、これは。

青木(有)さん

Cグループ。

石塚さん

出てないのに、そういう集約になっている。入っているでしょう。だから、要はAとBとCがぐっちゃぐちゃじゃないかと、ある部分は思うのです。

青木(有)さん

これと違うでしょう、ここに書いている内容。その内容で。合ってます？ 全部。大分違っているところがあるのは、なんでそう違ったのかなと、今、見ながら。

山下さん

これもAグループが、ちょっとこう、頭文字が書いてあるじゃないですか。これは非常にいいと思うんですよ。ほかのところは書いてないから。そういうことも含めて、今後考えていただいたら。

渋田さん

何回もお話してすみません。能率協会さんのほうからのご指導のほうをよろしくということで、提案させていただきます。

茅ヶ崎市の課長さん以上がご出席なされている市議会が現在、定例市議会が開催されておりまして、予算その他の質疑があります。その中で、茅ヶ崎市のいわゆる課長さんや何か、いわゆる上の方で女性の方が大分出てきておられます。今回の推進課さんのお話は、私は男女の別なくやるべきだと思っていますので、できるだけ、その推

進課のほうに女性の方がおられたり、または、支援をされておられる部課等に女性の方がおられたらば、こういういい会議は、いわゆる男女別なく出席をされるよう、もちろん、調査チームとか、交通費がかかるような場合は、高橋課長のポケットマネーでもいいから、出てもらうようにしていただければと思っておりますし、また、能率協会さんのほうが経費を雑費として要求されて、それらの方にも支給されるようにされて、楽しい茅ヶ崎市民の目線に立った、グループの報告書となるよう、お願いいたします。能率協会さん、よろしくお願いいたします。

中村さん
石塚さん
藏前さん

名前を出しましょうよ。議事録に名前を出してください。

賛成。

すみません。萩園の藏前です。

何回もお休みにならざるを得ない、全部、重なってしまって、出れなかったことが随分あるのです。

私も第1回目、出たときは、母が亡くなって2日目かなんかでした。本当に。でもね、期待して、本当に、あ、市民参加、本当にちゃんとした、この茅ヶ崎市の市民参加を求めて、こんなワークショップをするんだなと思ったんですが、第1回目から、えっ？という感じで、市はきちんとした理念がないからじゃないかなって、私なんか思うんですが。

私だって勉強不足ですけども、千の川のことをまた今言って申し訳ないのですが。千の川のワークショップでも、市民はすごく盛り上がり、すごい、本当に自然に近いと言ったら変ですけども、自然環境に近いような状態にもっていこうとして、みんなが一生懸命頑張って、いろいろ計画したこと、これは市は取り上げるかどうかかわかりません、ぐらいな意見で終わっちゃったわけですね。それじゃ、ワークショップ、何年間も続けた意味がない。いろんなもの犠牲にして参加した意味がなくなっちゃったわけです。

そういうことがないようにと思っているのに、いつも根本にあるのは、市が大事な市民の声をちゃんと集約できるような理念が何もないからじゃないかなと思うんです。まず、この次までに、このワークショップに関して、きちんとした理念を入れるという言い方でいいのかな。市の考え方を、ちゃんとお示しいただきたいと思うんです。このまま、ずるずる続けても、こんなグループに分かれるっていうこと、私がちよっとへそが曲がっているからかもしれないかもしれませんが、グループに分かれるっていうことはみんなの声を沈静化するためかな、とか思ったんですね。声を静めるためなのかなと思ってしまうくらい、もっとみんなが自由にどんどん、いろんな人の意見があちこちから聞こえてくるような形じゃないと。分けちゃうと、もう、分散しちゃうので、相手が何言っているかわからない状況で、ここだけで終わってしまう。

この後、このまま、グループはどういう形にもっていくのかも私には見えてこない。休んでおきながら、こんなこと言って申し訳ないですが、余り進展していないという感じがあるので。

茅ヶ崎市のはっきりした考え方をボンと持ってきてくれないと、ずるずるずるずる、なってしまいます。みんなが本当に苛立つのは、そういうことじゃないかなと、自分なりに思ったんですけども。ぜひ、この次までにきちんとした考えをお示しいただきたい。

みんなコンサルの責任にしていることってわからないんですけど、コンサルの皆さ

んにきちっと働いてもらえるように、行政が、きちんとした統率力を持ってやっていかなきゃいけないのに、何かを受けるとコンサルのせいみたいになっちゃうのは、変ですよ。やはり行政がコンサルにお願いして、まとめ役をしていただいているだけです。コンサルが行政の代わりをするわけじゃないですよ。

なんかよくわからないんですけど、その流れが。

青木(有)さん

議事録の名前、載せる件、それを決着つけないといけないと思うんですよ。私の意見は、内部的には名前記載のほうが責任の所在がはっきりしていると思うんですけども、ホームページにアップすると、全国版になっちゃいますね。そこまでやる必要があるかって、ちょっと疑問な方もいらっしゃる。

私も現役だったらちょっと困る、そういうことはあるので。外部のホームページに掲載、インターネットの情報は、個人名までは出さないほうが私はいいいと思います。内部は、事実を出す。

ファリシ
テーター

いかがでしょうか。ただいまのご意見は、内部確認用の段階では名前を入れるけれども、公表段階では個人名は外すと。よろしいでしょうか。

(能率協会:白鳥)

渋田さん

それは、今までの経験でそうでしょう。

和久さん

僕は市民にやはりきちっと責任ある発言がわかるという状態にすることが望ましいなという考え方です。

ファリシ
テーター

公表段階でも名前を入れたほうがいいという。

(能率協会:白鳥)

和久さん

市民に出すっていうことは、全国に出すっていうことです。公開です。それが議事録です。

渋田さん

浜竹の渋田です。公表ということは、今、大分、法律で厳しく追及され、または今、不正の入学試験の問題等にありますが、いろいろなところで調べられて、いわゆる公表で、渋田なら渋田と書かなくともわかってしまう時代に来ているんです。

ですから、その辺は能率協会さんの方がよく知っていると思いますので、ご判断は、能率協会さんの方と市の方でされると思いますが、今、本当に不正入学その他で、わかっておられるように、もう今、パソコンをパッとやっただけで、すっと出てくるような時代ですので、その辺は十分、ご検討、または皆さんにご迷惑のかからないような方法でお願いいたします。よろしく。

中村さん

いろいろな意見が出ますね。ただ、この中では、その意見に対して、反対意見を討議する場ではないんですね。それで、ちょっと、的外れな発言とか、あるいは、市民としての、自治基本条例にも、市民の義務としてありますよね、発言には責任を持ちなさいと。ところが、余り関係ない発言とか、あるいは、人を中傷するような発言を議事録に載せて、参加者が誰もそれに対して、何の異議も唱えないということになると、参加者としては、もう参加したということも知られてもらいたくないと思うんですね。そういう意味で、私は言ったんで、本来、そこまでやる必要はないとは思いますが。だけれども、この参加している方々が、それなりの自重と責任を持って発言されるなら、特に名前を出さなくても、いいと思います。

佐々木さん

私は議事録の名前というのは、ホームページにアップするのも名前を載せて、少なくとも私は載せて構わないと思っています。あくまでも自分の発言、こういう会議に

出た以上は公的な発言をしているわけですから、それが名前を出されて困るような発言であれば、責任を持ってしなければいいだけの話で、逆に、責任を持っているから発言をしている話で、佐々木という名前を出してもらっても、別に私は困ることはないので、議事録、それからホームページのアップでも名前を載せるということは、私は構わないし、するべきではないかなと考えています。

中村さん

名前を出すということは、私は基本的には責任を持たなきゃいかん。ただ、そのときに、例えば、会のこのディベートしている内容というか、発言が、若干品位に欠けるとか、そういうことになったときに、参加者として、僕、恥ずかしいんですよね。だから、本当に皆さん、そういうレベルで討議ができるなら、前向きの。それならいいんです。だけど、ちょっと、若干そういう傾向でもなくなったので、それで、今、そういう発言をしているのです。それともう1つ、名前を出すということの弊害として、出すということのいいメリットは、発言に責任を持つということだけれども、逆に、それによって発言をしたくても、何となくできなくなるデメリットもあるので、そういうことも考えながらやらなきゃいけない。基本は、もうちょっと、レベルの高い議論をしたいなと思っております。

ファリシ

テーター

(能率協会:白鳥)

責任を持って発言する意味から、名前を出していいという意見と、やはり公表段階では控えてほしいと両方意見出ています。やり方としてはどちらもあると思いますけれども。

佐々木さん

個人が選択するという。個人が出してもいいよって言ったら、そのいいよって言った人間だけ出すっていう、そういう議事録も存在しますね。

ファリシ

テーター

(能率協会:白鳥)

はい。第3案は、出してもいいという方だけ、個人名を載せて議事録をつくる。

中村さん

最後の発言はあまり議事録に載せてもらいたくないですね。最後の発言は、いや、僕の、あまり議事録に載せてもらいたくないですね。

渋田さん

浜竹の渋田ですが、今、検事さんの事件、可視化の問題で、エース前田という大阪地検の方の事件で、今、最高検察庁さんは可視化の問題にさらされております。刑訴法191条から193条、それから刑訴法247条に関する問題で、今、可視化の問題が出ております。この茅ヶ崎市の今日の会議とは違いますが、世の中は、そういうふうには市民の目線を見て、市民の考えのもとになされる行政、司法の時代になってきていると思いますので、一番そういうことに経験をなされている能率協会さんが、市の方と判断、いわゆる相談されてください。と思います。私はそれを強調します。検事さんたちは、もう本当に大変な気持ちだろうと思いますが、今、司法世界が裁判官と検事、裁判官から検事になった人が弁護士になった、ずっと初めから弁護士になった方との対立関係が起きておまして、これらも含めて、新しい日本の将来が開かれると思いますので、よろしく、茅ヶ崎市はその先例となるように、能率協会さんと市の方でお話し合いをぜひ、お願いいたします。

高橋課長

私のほうの発言の中から、会議録のつくり方について、ちょっとご議論いただいたところがございます。今、両方の出す、出さないのご意見ございます。そういった中で、自治基本条例の検討会議の中では匿名でいこうという形でもってやりました。なぜかといいますと、やはり、中村さんがおっしゃった、デメリットの部分のところ、自由な意見が阻害される恐れもあるという部分のところ、どうしても自由に出してい

く方が重要であろうといったところでやっただころでございます。その時も、一応、内部の中で、どなたが発言した内容か、ということだけはわかるようにという部分で、例えば、佐々木さんが4回発言していると。その佐々木さんの発言したところについては、Sさんにしましょうと、そんな形でやれば、その人の発言の内容が一応、脈絡がある中での形になるという部分がございますので、事務局のほうといたしましては、実名ではなく、いわゆるA・B・Cという形の中で、どの人が発言したかという部分のところは、きちっと特定ができるような対応をさせていただけたらと思っております。

佐々木さん

自治基本条例の議事録、最初は名前、イニシャルじゃなかったでしょう。載ってましたよ。実際に、16、地区の説明会の段階で、この発言をした佐々木ってだれだっていうのを、自治会連合会の方々から言われた経験があるのですけれども。それって、名前を載せていたということの証明ですよ。途中から確かに名前は消えました。だけれども、最初は名前が載っていたことは確かです。だけど、「この発言した佐々木ってだれだ」って言ったら、「僕だ、この発言で文句があるか」というお話はしましたけれども。高橋課長、その辺は、最初は自治基本条例も名前、載せてました。記憶が多分、5~6年前の話なので定かじゃないかもしれませんが、その辺はちょっと、事実とはちょっと若干違うので、訂正させていただきたいと思います。

ファリシ
テーター

(能率協会:白鳥)

それで、基本的に名前を出してほしくないという意見があるので、そこはちょっと尊重しないといけないかなと思います。そうすると、名前を出してもいいという方の出し方をどうするかというところなんですけれども。個人名で出すという考え方と、あと、イニシャルで整理するという、2案出ていますけれども。なんかそれも、バランスとしてはあまりよくはない。

青木(有)さん

発言されてない方、どうなんですか。皆さんオーケーだったら、私は、対外的にはって発言しましたけれども。ほかの皆さんはオーケーって言うんだったら、私も構いませんけれども。発言されてない方、わからないじゃないですか。

石塚さん

要はちゃんとした話は載せていいですよ。だけどね、仲介、話した話のくだらない話をしたときには、名前なんて書かなくてもいいですよ。だから、あの人が言ったときにね、それはおかしいじゃないか、と言ったのを、「おかしいじゃないか、石塚」って書いたら、ちょっとおかしいから、その程度は理解してもらいたい。僕は逆に言えば、意味のある話のときにはきちっと載せてもらって当たり前ですよ。自分で発言してるんだから。だけどね、だれかさんが言ったときに、それは違うんじゃないのって、違うんじゃないの、を載せることはちょっとおかしいんじゃないのと思います。だから、逆に言えば、そういう程度だと思いますよ。ちゃんとした意見のときには、載せてください、私はそう思います。

行政としてこの内容はおかしいという、批判のところとか、中傷のところは載せないだけでいいと思います。それ以外は載せるべきだと思います。

小磯さん

小磯です。ごめんなさい、私もたまにしか出てこないんですけど、議事録は全員の承認をもらって、アップすることが原則でいいんですね。削除してほしいと思った人は、自分の発言を削除することができるかと解釈していいですか。だから、本名を出すんだとしたら、回ってきたときに、この発言はやっぱり、ちょっと自分としては、言ってしまったけれども、確認した上で、やっぱりこの場合。

青木(有)さん

いや、確認するっていうのはまだなってないですよ、全然。

ファリシ
テーター
(能率協会:白鳥)
小磯さん

先ほど、内部用では名前を入れて確認していただいて、その上で公表という話もあったので、やはり、1回、確認していただくステップを踏まないといけないかなと。

もし、名前を出すならば、私はそのステップを踏まないで、だって、板書したこと自体が、自分の本意になってないっていうんだったら、テープそのもの起こされているかどうかもわからないんだとしたら、自分の名前を明かすんなら、きちんと1人1人が確認をしなきゃならないし。

私は基本的に名前は出したほうがいいと思っているんです。ただ、出したほうがいいとするならば、自分もどんな発言するかわからないから、ホームページアップするときに、ちょっと1つ、留保の時間が欲しいかなと。責任を持って発言はするけれども、やっぱり人は間違いも犯すし、それが会議の時の事実だと言われればそれまでなんだけれども、やはり、自分の名前を明かして言うには確認するか、あるいはだれかが責任を持って議事録署名人になるしかないなので、それはやっぱり、このワークショップの中で議事録署名というのは現実として不可能だと思うので、出た人がみんな発言しないとダメかなと思うので。で、全員の意見の確認をとっても、私は、出したくないっていう人はイニシャルか仮名でもいいのかなと今の段階で思っています。

藏前さん

1つ、心配なのは、こういうつもりで言ったのに、言葉尻だけでもって、そのまんま、記録で載せられちゃうと、人は、例えば、例えがちょっとうまくいかないんですけど、だれかの発言にうなずいて、その続きを言ったみたいなき感じのときっていうのは、その前がないもんだから、例えば、何かの意見に反対するのではなくて、その一部分反対しているときに、それは反対ですって言っちゃったら、反対になっちゃったりとか、そういうのもやっぱり心配な部分ではあります。

だから、やはり、確認がされない以上はホームページには載せていたくないという感じですけど。一応は、個人に、新聞の記事でもそうでしょう、よくわかんないんですけど、普通は何か載せるときには、これでいいですねって確認はあるんじゃないかなと思うんですけど、確認はどうなさるんでしょうか。確認してから名前とか、例えば、イニシャルとか、それとも、例えば、赤羽根在住とか、萩園在住とか、そういうふうにするのか、それはわかりませんが、そこはどうなさるんでしょうか。

ファリシ
テーター
(能率協会:白鳥)
濱田さん

1回確認のステップを入れるというところはまず欲しいでしょうかね。あと、名前を入れるかどうかのところ、どうでしょうか、皆さん、発言されていない方のご意見、求める声がありましたけど。

名前をちゃんと入れてください。ということは、名前に対して、一応だれかさんが見て、その人は不利益をこうむるかどうかでしょ、簡単な話。で、どんな不利益がこうむるのかということだろうと思うんですよね。ですから、特に名前なしで単にしても、私は問題ないなと。

渋田さん

浜竹の渋田ですが。名前が知れたところまでは、被害者が出ないんですよ。それを見た方が、例えば横浜弁護士会なんかの問題では、その弁護士さんに委託した人が、弁護士事務所まで行って、その人を殺してしまって、つい最近、有罪の判決が出ましたが。この会議で、そういうことが起きないがために、ためにですよ、我が茅ヶ崎市の市役所の何かの機関のために、被害者になるということは、一番、今、地方裁判員制度でも問題になっているのですが、そこなんですよ。いいですか。死刑になったら

その家族はおまえを恨むとか何かになったときに困るから、その辺を十分考えて、いわゆる能率協会さんと市の方で、お話し合いをなされて、課長が何度変わっても、たとえ、副市長になったとしても、殺されても、あのときの事件であったということが能率協会さんの方でわかるようにして、名前を出してくださいよと、名前を出すなら、と、お願いをしているわけです。よろしくお願いします。

ファリシ
テーター

ちょっと、ちなみに、名前を出してほしくないという方、どうですか。いらっしゃらないですか。

(能率協会:白鳥)

青木(有)さん

ちょっと懸念があるって私は発言しましたね。だから、皆さんがそれでいくっていうんだったら私は言いません。

高橋課長

今、確認させていただいた中で、基本的には、前回の会議録に名前を入れた形で皆さんにお配りした中で、チェックをしていただきます。それを経て、ホームページアップするという形で、会議録は、今の内部の方針ですと、できるだけ3週間以内という部分がございます。この会議につきましては2週間に1回という形のスパンでやらせていただいておりますので、その辺もクリアが可能なと思いますので、前回の会議録については、次回の中で、ご指摘をいただいて、修正をしたもので、きちっとした形でアップしていく。その際には実名で対応するという事で、皆さん、ご理解をいただいたという形で対応させていただきたいと思います。

石塚さん

前回のときに1週間以内に会議をやりますって言ったら、3週間に変わってるけど、それは。

高橋課長

石塚さんからのご指摘なんですけれども。会議の概要については、1週間ですという形でございます。会議録は、3週間というのが内部の形になっておりまして、概要と会議録になりますと、その辺の密度が若干違いますので、その辺のところはご理解をいただきたいと思います。

石塚さん

概要は1週間です出すわけね。

高橋課長

1週間で一応出すような、現在のところ、努力目標になっているので、何とか頑張っているところでございます。

有竹さん

有竹です。確認なんですけれども、ホームページに記録を出す本当の目的はなんと考えたらいいでしょうか。参加したくても参加できない。もしくは、全然参加するつもりはないけど、様子を垣間見たい人のため用につくるのか。それとも全部参加できないけれども、次回に備えて出ようと思う人がメインなのか。聞きたいのは、もちろん、思いと違った表現の方法で記録されるのは嫌なんですけれども、同時に、何度も言っていることに対しての答え、コメントみたいなことに、今まで参加してないけれども、参加したいと思うんだとしたら、あと、途中欠席しちゃったときに知りたいと思うのは、参加者から出たことに対して、どういうふうに答えられているか、それから次までに準備される、こういうことすっていうことを、どういうふうにコメントがついているかっていうのは、私は、ちょっと記録とは違うかもしれないけれども、活かせるような気がするんですね。いやみに聞こえるかもしれませんが、1回目からたくさんいろんな人が質問していることに対して、答えられていないことがたくさんあるかなと思うんです。それを整理されていないような気がするんですね。言ったまんまが書かれるかどうかというの、もう1つ必要なだけけれども、どういう課題が残されたまま、次に進んでいるかということ、記録に残して、それはこういうふう

に解説がされています、というような、そういう形態の整理の仕方でホームページに載るということが可能であれば、飛び飛びで参加してもわかりやすいなと思うし、ずっと参加していても、次に自分がどういう準備、心構えで来たらいいかということがわかりやすいかなと思うんですが。ただ、それをやるのはちょっと、少し、困難かと思いますが、希望的にはそういうことが私は望みですが、いかがでしょうか。

事務局(村上)

第1回目から、お答えできていないという部分のところですね。先ほど来、お話もございました会議録も第1回目にさかのぼって、起していくという中では、可能ではあると思います。その部分については、整理をさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

有竹さん
高橋課長

ありがとうございます。

すみません、時間ない中で、まことに申し訳ございません。今、有竹さんおっしゃったように、ホームページに出す理由というのは、ご指摘のとおり、2 つともございます。そういった中で、私どもといたしましては、現時点におきましては、ワークショップへの参加者、この方に漏れなく情報が提供できるようにという、それがメインでございます。この会議がある程度進んでいった段階では、一般の市民の方にも記録としてずっと見ていただく中で、いろんなご意見をいただくための周知という形もございまして、現時点では参加者優先で考えております。そういった中でアップがちょっと遅いという部分がありまして、苦慮しているところではございますけれども、できるだけ早く出して、次回の議論の皆さんの事前準備ができるように、努力してまいります。すみません、いろいろとご議論いただいてありがとうございます。最後。

村中さん

今の有竹さんの話で、議事録と、それから概要とは、ニュースが出てますよね。私たちのところでもそのニュアンスが少しずつ違うっていうので、問題に前はなっていたんですけども。その辺に関して、有竹さんが言われたように、ニュースの中にこういうふうなことで事務局としての考え方をきちっと載せて、次のときにはこういうことをメインにしたいとか、こういうふうなやり方でしたいというようなことをきちっと書いていただければ、次に参加する人が安心して参加できるんだと思うのです。そのつくり方がよくわからない状況なので、その辺をもう少し検討していただいて、こういう問題点があって、自分が今度行くときにはこう考えていけばいいのかというのがわかるようなニュースのつくり方をしていただければと思いますので。内容に関しては、概要が出ているんだしたら、概要を見てくださってという書き方で十分かと思いますが、よろしくをお願いします。

ファリシ
テーター
(能率協会:白鳥)

どうもありがとうございます。それではもう1回確認ですけれども、次回は、今のところ、前回の話し合いを踏まえて、これまでの課題といったところですか、今後の考え方というものを中心に話し合っていく方向で検討したいと思います。グループごとの会議録については、とるという方向でやってみて、それをまた見ていただいて、判断していただければと思います。はい。ということで、今日、時間が過ぎましたけれども、これで今回は終わりにしたいと思います。

4. 閉会

高橋課長

長時間にわたりまして、ご議論ありがとうございました。本日のいろいろなご意見の中でも、基本的にどうあるべきだというようなところ、きちっとお示しされた部分があるかと思えます。その辺のところは具体的に、それを取り上げまして、今後、条例の中にきちっと反映させていきたいなと思っております。

次回につきましては、午前中ワークショップ、午後につきましては基本条例のフォーラムもごございますので、1日、お時間を空けていただきまして、参加のほうをお願いしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

—以上—